

令和6年度公開講座Ⅰ報告（最終報告）

「メンタルヘルスと不登校」

2025/5/1

◆申込総数：431名（QRコード申込フォーム：376名、メール・FAX：55名）

田川市在住者：延べ6名

田川市在勤者：延べ12名

◆公開講座内容

❖開催方法：オンデマンドにて配信

❖配信期間：2025年1月14日（火）～2025年3月28日（金）

❖テーマ：「メンタルヘルスと不登校」

第1部：基調講演「メンタルヘルスと不登校」

第2部：パネルディスカッション

「メンタルヘルスに課題を抱える不登校児童生徒の支援のポイント」

❖講師：荒巻智之先生

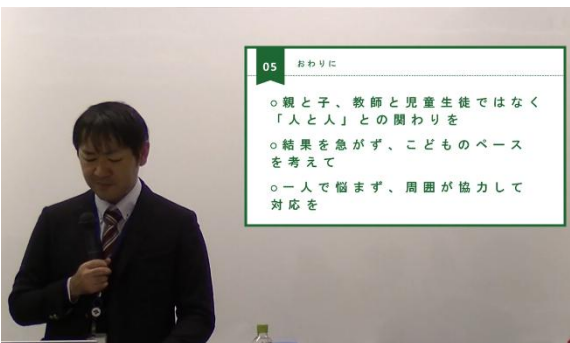
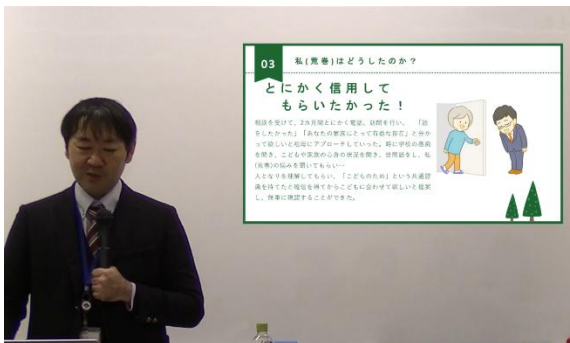
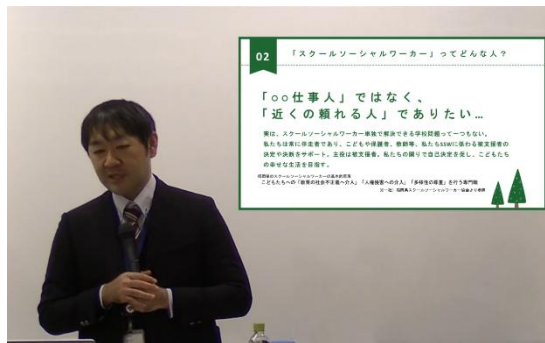
（須恵町こども家庭課こども家庭支援係 係長 兼 スクールソーシャルワーカー）

❖座長：奥村賢一

❖視聴回数（3月28日現在）：延べ791回（第1部：518回、第2部：273回）

▼第1部：基調講演「メンタルヘルスと不登校」 講師：荒巻智之先生





▼第2部：パネルディスカッション

「メンタルヘルスに課題を抱える不登校児童生徒の支援のポイント」

・ 荒巻智之先生

(須恵町こども家庭課こども家庭支援係 係長 兼 スクールソーシャルワーカー)

・ 奥村賢一

(福岡県立大学 人間社会学部社会福祉学科准教授/
不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ)

・ 原田直樹

(福岡県立大学 看護学部看護学科准教授/
不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ)

パネルディスカッション

メンタルヘルスに課題を抱える 不登校児童生徒の支援のポイント

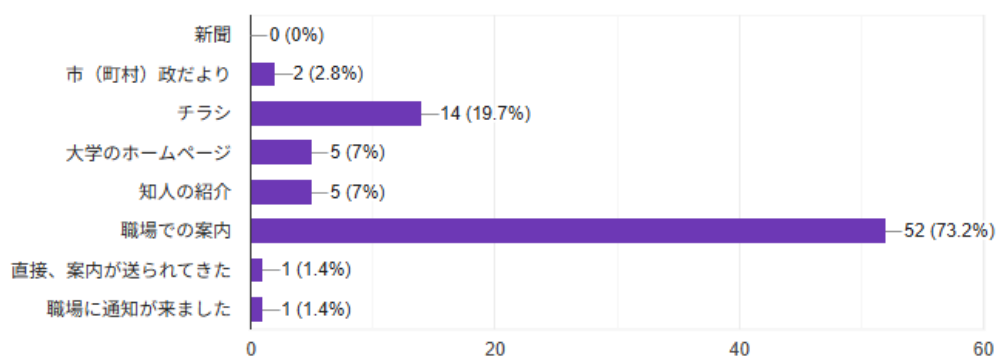


◆アンケート（回答 71 名）

※一部複数回答により回答数 71 名より回答数が多い設問があります。

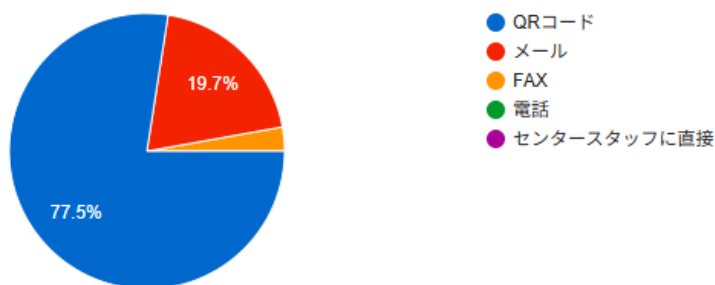
1. 今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。

71 件の回答



2. 今回の公開講座の申し込み方法を教えてください。

71 件の回答



3. 住まい（または勤務）の地域

福岡市 10 名、北九州市 9 名、行橋市 5 名、古賀市 5 名、飯塚市 4 名、八女市 4 名、田川市 3 名、筑紫野市 3 名、嘉麻市 3 名、宗像市 3 名、田川郡 2 名、篠栗町 2 名、大木町 2

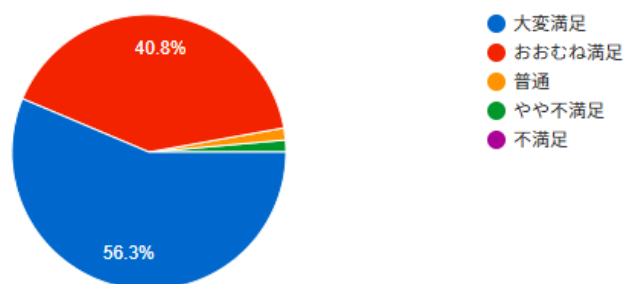
名、大野城市 2 名、那珂川市 2 名、大刀洗町 1 名、築上町 1 名、その他 1 名、鞍手町 1 名、須恵町 1 名、春日市 1 名、愛媛県 1 名、久留米市 1 名、糟屋郡 1 名、直方市 1 名、岡山県 1 名、佐賀県 1 名、水巻町 1 名

4. 所属機関等について教えてください。

教育機関 52 名、行政機関 14 名、医療機関 3 名、地域での支援者 3 名、家族 1 名、ピアサポーター 1 名

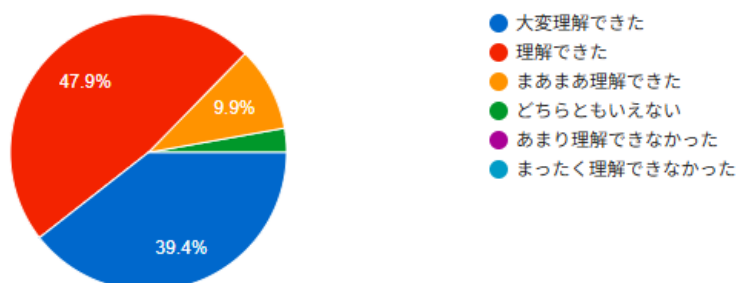
5. 今回の公開講座についての感想はどうでしたか？

71 件の回答



6. 今回の公開講座に参加してメンタルヘルスに課題を抱えた児童生徒の支援について理解が深まりましたか？

71 件の回答



7. 1部の基調講演へのご意見・ご感想をお聞かせください。(一部ご紹介)

- ・ スクールソーシャルワーカーの役割や、スクールソーシャルワーカーの視点から見て実践した事例の提示がありとても勉強になりました。不登校の生徒に会ったから安心ではなく、会えてからが始まり、本当にそうだと思います。過去の原因について責任を問うのではなく、今から未来に視線を向けた支援をすることもまた、本当にそうだと思います。思うだけでなく、行動に移さなければならないと改めて感じさせられる講演でした。
- ・ 先生と生徒、大人と子どもではなく、人と人で対応していくということは立場上考えさせられました。スマホに依存している生活がすべて悪いわけではなく、仮想空間から現実を見せてあげることができるし、取り上げると逆効果であるとあった。子どもとつながるきっかけとして相手の興味のあるものにこちらも寄り添っていく必要性を感じました。
- ・ 不登校について現状や置かれている子どもについて考えることが出来ました。話の中でも子どもが中心に置かれて話していただき子どもの未来、子どもを抱える保護者の気持ちに寄り添う「人」でありたいことを感じました。思いはあきらめないで、一人で抱え込まないでいられるように心の安定や余裕を持ちたいと思いました。
- ・ SSWの方の仕事の捉え方を理解した。不登校の方へのアプローチの基本的な考え方を理解した。
- ・ コミュニケーション不足は児童生徒だけでないという事が印象に残りました。様々な課題、問題を一人でも多くの方と対話しながら解決していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 今まで自分達がやっていた支援は、よかったんだと確信が持てました。また、わたしが考えが及んでいない部分のことも知ることができました。
- ・ 本来のSSWの業務が見えました。ありがとうございました。
- ・ 難しい専門用語を使われず、とってもわかりやすかったです。また、資料にまとめているので、後でも活用しやすくありがたいです。2回拝聴しましたが、1回では曖昧なところも確認でき有意義でした。
- ・ 単に訪問時にチャイムを鳴らして不在ではなく、中から足音が聞こえたなどの情報が次につながるという点は専門職でなくても真似ができるので、実践につながると感じた。
- ・ SSWは、本人、家庭、学校、医療、福祉に繋げる大切な役割だということがわかった。本人が何に困っているのか、時間はかかるかもしれないが、将来を見据え諦めず支援していく、困っている児童にかかわる支援者みんなに言えることだと思った。

- ・ 行政担当者及び SSW としての経験から、行政と現場をつなぐヒントとなる大変貴重な講演だと感じました。
- ・ メンタルヘルスに課題がある子どもたちへ、SSW の荒巻先生が具体的にどのような介入をされていたのかというお話を聞いて大変勉強になりました。SSW のことを理解できていそうで、なかなか理解できていなかったため、このような SSW についての研修会を開催して頂いてありがたかったです。
- ・ こどもの為に 気持ち是一緒 という言葉に共感しました。また、家庭と学校が疎遠になる理由も理解しました。異変に気付いた時がチャンスですね。
- ・ 不登校児童だけでなく、保護者の支援も必要なことと先を見据えて、結果を出すことを焦らずに関わっていったらいいのかなと感じました。
- ・ 私は誰に寄り添うべきなのか、相手は何を求めているのかを聞き出せるようにまずは信頼関係を築きサポートしていきたい！そして一緒に考えていきたいと思った。
- ・ 教員と医師がもっと連携を図ることが大事で、情報交換をする場が必要と感じた。
- ・ 教員と SSW が双方の仕事内容を理解できるような研修の場が必要だと思いました。
- ・ 学校（教員）だけでは解決が難しい、SSW に任せてしまえば解決するわけでもない、連携に苦勞されている様子がうかがえました。また事態が硬直化してからでは解決が難しい、早く気づいて対処することが重要と心に刻みました。
- ・ 「思いは必ず届く」というのがとても印象的でした。また、学校の先生も一生懸命頑張って色々取り組んでおられるということが分かりました。
- ・ どうしても、なぜ学校に行けないのか？という事象に目がいきがちだと改めて気づいた。
- ・ どのような背景があったのか、どんな支援が大切かを関係職員や関係機関で共有して、その子や保護者に合った支援をしていくことが大切だと改めて学ぶことができた。
- ・ こどもに関心を持ち続けてしっかり繋がっていききたいと思いました。繋がろうとするモチベーションは相手にも伝わるのはそうだなと思いました。
- ・ 「不登校」が次の行動のステップになるように…というのが印象に残りました。いずれは社会に出ていくわけで、その過程の中に今があり、この期間が必要だったと子供にも保護者にもいずれ思ってもらえるように、常に関心を持ち続け諦めない事が大事だと感じました。
- ・ チーム学校として、各々の専門職がそれぞれの立場から子どもと保護者を支えていくこと、また子どもや保護者のニーズや背景をきちんとアセスメントすることに努めたいと思った。

8. 2部のパネルディスカッションへのご意見・ご感想をお聞かせください。(一部ご紹介)

- ・ 支援者からの質問内容はどれも自分も感じている事項で、ディスカッション内容はとても参考になりました。自己満足の支援にならないように、そして個人的な支援ではなく、学校内外の関係機関と連携した組織的支援ができるようにより多くの職員に見てほしい内容でした。

- ・ 広い視野で其々の方の立場を尊重しながら対象児童の立場で将来を考え、自己満足な関わりをしない事が大事であるとかいした。医療者の選び方等参考になった
- ・ 医療機関に繋げる事だけがすべてではないということを強調されており、支援の立場もそれぞれなので、そこでの連携、コミュニケーション等が重要だと感じた。
- ・ 支援者の基本や支援者として大事なことを再確認させていただき、我が身を振り返りながら反省しました。様々な角度から、核心をついたご意見を聞くことができ、大変勉強になりました。
- ・ 自分の業務の中でも悩むことの多い医療機関との連携、受診を勧める際の留意点について聞いてとても良かったです。
- ・ 質問に対してさまざまな視点での意見があって非常に勉強になりました。目先の問題の解決だけではなく子どもの未来を見据えた支援をしていきたいと思いました。
- ・ 具体的な質問をもとにした話を理論的に紐解いてくださり、とても腑に落ちた。
- ・ 学校と病院では見立てが違って当たり前という点を見落としていたと感じた。同じスタート地点に立っていると思い込んでいることが連携の障壁となってしまうため、注意が必要である。
- ・ 質問形式に、それぞれの先生方のお答えがとても参考になった。関係性を作ることが、その先の支援に繋がる。私自身も経験からそう思う。迷った時には、子どもの最善の利益に立ちかえることを意識しておこうと思った。
- ・ 具体的な質問に対する回答という形でしたので、大変わかりやすかったです。子供を中心に考え、色々な方に相談しながら連携を図ることが大切だと改めて感じました。
- ・ つくづく、前提として、保護者や支援者中心ではなく、子供を中心とした支援を行うことについて考えさせられました。子供の声を聞くこと。SOSが表出できない子供の困り感を拾い上げ、支援チームで情報共有して、たくさんの大人が関わりながら取り組むことが重要だと考えました。
- ・ 病院に繋ぐがゴールではなく、なぜ繋がらないといけないのかをよく理解し、子ども、保護者の悩みを理解し寄り添っていきたい！！すぐに答えが出ないもんだいだが、あの時組織的に相談できてよかった！が届くまで色々な研修を受けつつ、私も強くなりたいと思った。
- ・ 複数の関係者から話を聞くことができとても参考になり、日頃から関係機関との連携の大切さを再認識致しました。
- ・ メンタルヘルスの問題は、増えていて、受診を勧めてしまうケースが多いです。もっと、細やかな対応が必要だと思いました
- ・ 多機関が連携する際のポイントを知ることが出来、勉強になりました。特に、立場や見立てが異なることをネガティブにとらえるのではなく、当たりの前のごときとして、子どもの声に立ち返って支援を行うことの重要性を学ぶことが出来ました。
- ・ SSWならではの視点だなと思い、よい学習になりました。医療につなげば何とかかなと思っていたのだなと痛感しました。医療につなぐのが目的ではなく、何を目的に医療につなぐのか、どう家庭に説明するのか、子供を長い目で見た時にどんな支援が必要なのかを考えていきたいと思います。
- ・ 対象者に最適な医療機関を探す、そもそも医療につなぐべきか否か、親にとっても支援者にとっても判断が難しい、日々情報収集・共有に努めることを意識して行動したい。

また学校、行政、医療が各々の視点の違いを理解しあって事に当たる必要性を感じました。

- ・ 3人の先生方のそれぞれのお立場での話が、内容を深めるのに役立ちました。特に「支援者の話がかみ合わないときこそ子どもの視点に立つ」という当たり前でシンプルなことがとても難しいけれど、大切なことだと再確認しました。今後も「子どもの最善の利益」のために、今の立場でできることを考え、実行していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 教育・福祉・(医療)の見立てが違ってもやもやすることがあったので当然と言っただけで腑に落ちました。そこを理解しあおうとするところに子どもへの深い理解と見立てが生まれるのだらうと思いました。

9. 今後(3月開催)の「不登校支援フォーラム」や次年度の「公開講座」に向けての
要望(テーマや講師、内容など)がありましたらお聞かせください。(一部ご紹介)

- ・ 長年の自宅での引きこもり不登校である子の高校進学や社会生活などの例を知りたい
- ・ 今回と同じ様に参考事例を踏まえて家庭での困り事からの相談を受けた後の動き方、展開の仕方を聞いてみたいです。
- ・ 「当事者、保護者の自立を促す」方法または、成功例を教えて欲しい。」
- ・ 不登校支援に関わる他業種連携を試みる(スタートさせる)際、どこが主体になって進めると良いかや事前準備として必要なことや心がけることなど、スタートアップのノウハウを講義してくださるとありがたいです。
- ・ 学校の先生達との連携の仕方
- ・ 不登校予備軍(別室登校や保健室登校)の子どもたちに対して、不登校予防としての具体的な対策を教えてくださいたいです。先生方のパネルディスカッションこれからも配信してほしいです！
- ・ SNSの適切な利用についての話題
- ・ 不登校の児童や生徒向けのサードプレイス
- ・ インクルーシブ教育について
- ・ 小・中・高の通信教育やオンライン授業等での成果と役割のようなものがあれば教えて欲しいです。
- ・ 校内適応指導教室の運営について
- ・ 不登校児の進路選択について(特に高校進学)
- ・ 学校における教員とSSWとの連携について考える～具体的な事例を通して～
- ・ 境界知能の事を学びたいです。
- ・ 子どもたちが抱える課題や支援者が留意すべきことについて今後も情報提供をお願いします。
- ・ 学校現場における不登校支援。例えば小学校で登校しぶりをどのように受けとめるか。親離れ子離れできない、学校の対応の課題、本人の課題などの見分けやその対応。年齢による違い。

- ・ 突然転学・不登校になるなどのケースや、本人も保護者も学校も理由がよくわからないままというケースもある。「令和型」と呼ばれることもある不登校に対してどのような支援ができるのかが知りたい。

ご参加いただきましたみなさま、まことにありがとうございました。

(福岡県立大学附属研究所公開講座Ⅰ担当者一同)

※ 本公開講座は、田川市・福岡県立大学包括連携協定に基づき、田川市から一部助成を受け実施しました。